

今国会は年金国会と呼ばれている。今、世間の関心は、某民主党代表の去就にあると言っても過言ではないし、外堀のみならず、内堀までも埋め立てられているような情勢だ。それにも拘らず、彼は自分の責任は、年金問題に道筋をつけることであり、辞任することが責任の取り方ではないと言う態度だが、世論は厳しく、世間の了解は得られていない。

件の女優を国会に呼ぼうとか、与党の年金未納閣僚等を「未納三兄弟」などと呼んで舌鋒鋭く糾弾したその舌の根が乾かぬうちに、己の未納問題発覚である。しかも、その弁解が納得の得られるものではない。当時の厚生省から十分な説明がないとか市役所から必要ないとの説明を受けたとか、挙句の果ては、奥さんまで動員しての弁明記者会見である。弁解すればするほど窮地に追い込まれていくのがお解かりにならないのだろうか。

一方、福田官房長官については、当初こそ何とか乗り切れるのではないかと思っていた節があるが、三党合意が成立して本国会での道筋がついた時点で、潔く総理の慰留をも跳ね返すほどの固い決意を以って辞任した。父親も出処進退は素晴らしかったが、その息子も誤らなかつたと言うべきか。

それにしても、最近話題になった政治家の引き際には疑問を感じずにはおれない。襖を終えたと御本人は思っておられるようだがK議員、虎視眈々と次回を狙っておられるのかS議員、将来を嘱望された(?) 何とかチルドレンの女性議員、学歴詐称で一時期話題となった某議員など枚挙に暇がない。

政治家の出処進退は、一般の者よりも鮮やかであるべきである。政治家は少なくとも国民の模範足るべきであり、人として最高の倫理観を備えているべきである。それが本来あるべき姿であった筈だ。最も政治屋と揶揄される最近の政治家にそれを望むべくもないとも言える。

最も福田長官の辞任も純粋に倫理観のみに基づくものでないことは自明の理である。その地位に恋々と固執していると思われる某代表をより窮地に追い込むための正に絶好のタイミングを狙っての辞任と言う局面を有していよう。そういうものを差し引いても男の美学としては美しい。男を上げたというべきか。

己でなければ出来ない、他の者には任せられないなどと言うのは思い上がりも甚だしい。最もそれ位でないと政治家にはなれないのだろう。最もこのような政治家は一部であると信じたい。そうでなければ日本は救われない。

政治家に限らず、社会において枢要な役割を果たす人に求められるのは、その地位や職責に必要な識見を具備することと、それに相応する倫理観と言うか資質である。識見と資質を兼備してこそ社会的に尊敬されるのである。今日、後者が等閑視されているようだ。戦後教育の現場で人間如何に生きるべきかと言う教育が重視されていないが故に彼等のような頭でっかちの人間が一端の地位を占めるようになるのだろう。

歴史的に出処進退に関する事例を調べてみたいが、何れかの機会に譲ることにする。